# Hterm+Renesasモニタでdebug目的のHEWでのコンパイル (割り込みなしの場合)

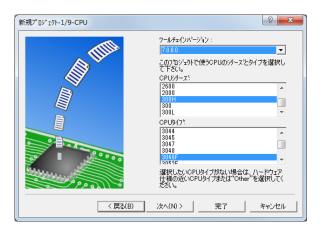
小坂

## 要点

- H8/3048はRAMが小さく、モニタでdebugすることのできるユーザ領域は約3kbyteなので大きなプログラムは実行できない
- 幸い、モニタにはprintfとscanf相当のルーチンがあるため、ユーザプログラムを小さくできる。
- 割り込みは使わない

## プロジェクト生成時

- アドレス空間は1Mbyte
- HEAPは使わないので削除
- ライブラリは何も追加しない
- スタックサイズは0x100に一応設定
- スタックポインタの設定はせず、モニタに任せる
- 割り込みベクタは削除











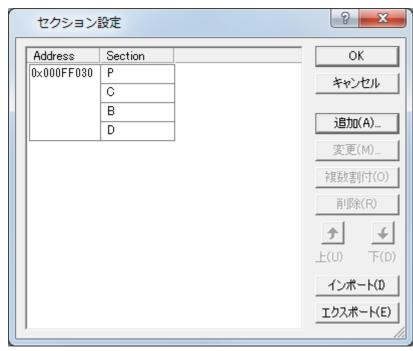


## コンパイル時のオプション

- Release, Debug切り替えでDebugに
- dbsct.cはプロジェクトから削除
- ビルドのtoolchaineで次の設定を行う
  - コンパイラ: 最適化なし
  - 最適化リンカ:入力:エントリポイント:「\_main」に設定
  - 最適化リンカ: 出力: 出力形式: バイナリ(ELF/DWARF アブソリュート付)
  - 最適化リンカ: 出力: オプション項目: ROMからRAMへマップを削除
  - 最適化リンカ: セクション: 次のページのように設定

## セクションをすべてRAMのユーザ領域 に移動





#### ビルドしてHtermへ

- HEWでビルドすると
- プロジェクトのディレクトリ内の¥Debugに xxx.absができる
- 同じ場所にxxx.mapができるのでサイズを確認

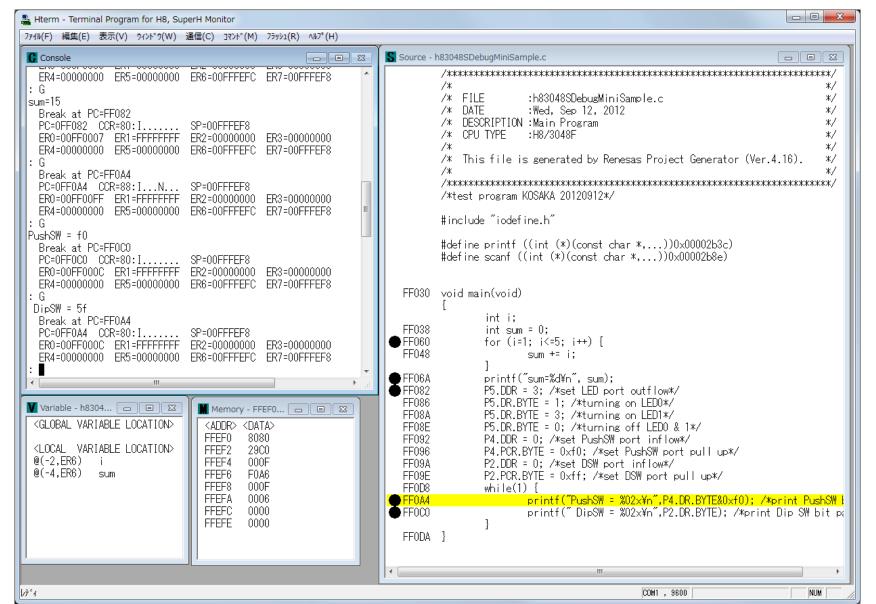
## モニタのメモリマップ

	メモリMAP	
00000 ∼000FF	ROM	ベクタエリア(モニタプログラ ム用)
00100 ∼1FFFF	ROM	モニタプログラムエリア
20000 ∼FEF0F		メモリ非実装領域
FEF10 ~FF02F	RAM	モニタプログラム作業領域
FF030 ∼FF12F	RAM	ユーザベクタ領域
FF130 ~FFEFF	RAM	ューザ領域 プログラム ボータ スタック
FF F 00 ∼FFF0F	RAM	特別(8ビットアドレスによる 高速アクセス領域)
FFF10 ~FFF1B		未使用
FFF1C ~FFFFF	1/0	I/O領域

#### Htermでのソースレベルデバッグ

- Htermを起動し、F9キーで h83048SDebugMiniSample.absをロードする.
- ソースファイルは複数ある
- h83048SDebugMiniSample.cを表示して, ブレークポインタを設定して, F5キーでゴー(起動は, main()の先頭)

## Htermでのデバッグの様子



## Htermでのデバッグの様子

